

# 元体操選手 寺本 明日香 さん

## 2023 新春対談

小牧市出身の同級生であり、これまでそれぞれの競技の第一線で活躍してこられた神谷さんと寺本さん。昨年現役を引退され、人生のターニングポイントを迎えたお二人に、現在の心境やこれからについてお話を伺いました。



(寺本) 20年間の現役生活の中で

### 現役時代を振り返って

(寺本・神谷) よろしくお願ひします。

（事務局） 人生の新たな道を進む人

（事務局） 人生の新たな道を進む人

寺本 明日香 さん *Asuka Teramoto*

1995年生、142cm、小牧南小卒業。

名古屋経済大学付属市邨中・高、中京大を経てミキハウス（クラブはレジックスポート）入社。

2大会連続でオリンピック出場（ロンドン・リオ）を果たす等、数々の実績を残し、2022年4月に現役を引退。

現在は至学館大学常勤研究員として勤務し、体操部女子監督に就任。後進の育成に尽力している。



# 元バレー選手 神谷 雄飛 さん

神谷さん・寺本さんから  
夢にチャレンジする皆さんへ  
メッセージをいただきました！



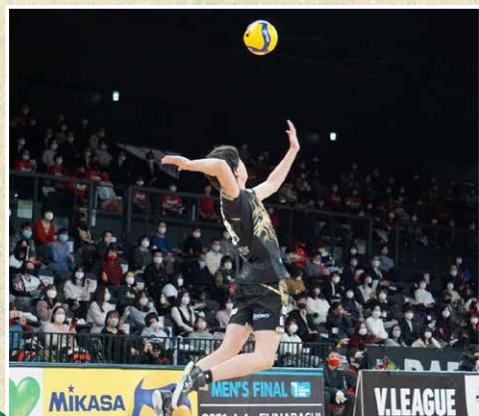
◀動画の視聴はこちら

（神谷）私の場合、残念ながらオリンピックとは縁のない現役生活ではありました。寺本さんと同じで怪我をした時は、とても印象に残っています。

あの時はそれこそ命がけの思いで準備している状況だったので、完治までに半年から1年かかる怪我をしてしまい、心の底から絶望を味わいました。

結局、東京オリンピックの代表には選ばれませんでしたが、怪我の中、目標に向かって頑張った経験は今の財産になっています。

色々なことがありました。印象に残っているのは東京オリンピックの代表選考会2カ月前にアキレス腱を切る大怪我をしたことです。



*Yuki Kamiya*

神谷 雄飛 さん

1995年生、191cm、小牧南小卒業。

応時中、星城高校、東海大学を経て、バレー選手チーム『ウルフドッグス名古屋』入団。

4年間の現役生活の後、2022年5月に現役を引退。

現在は『ウルフドッグス名古屋』の運営会社であるTG SPORTS（株）の社員として、ジュニアチームやバレー学校等、小中学生の育成やバレーの普及に尽力している。

(神谷) 私は正直に言つとやりきつたと言える競技人生ではありますんでしたし、まだまだ現役でやりたい気持ちもありましたが、恩師から「まだまだこれから的人生長いのだから、今後何をするかだぞ」

大好きなバレーが出来ず本当に辛い経験でしたが、あきらめずに自分を奮い立たせることができたのは、大きな夢があったからだと思います。

### 決意した「引退」

(事務局) お二人とも、熱い現役時代を送られたと思いますが、昨年の同時期に現役生活を引退されています。引退を決意された際の心境はどうのようなものでしたか?



「バレー界に携わって貢献してほしい」と言っていただき、そこで踏ん切りがついた経緯があります。

(寺本) 私の場合は、リザーブ（交代要員）として出場した東京オリンピックが終わった際に「これからどうしよう」と考えたことがきっかけです。

最初は、家族や友人から今後について聞かれてもはつきり答えられず、辞めたくないし、でも続けたくないという複雑な状態が続きました。

そんな状況で、なんとなく体育馆で練習していた時、ふと翌年

4月の全日本大会の出場権は自分で勝ち取っているので、その権利をしつかり使ってそこで終わらうという気持ちが芽生え、2022年



(寺本) 私は現役時代、セカンドキャリアについて全く考えていないかったので、「やめどうする」というところからでしたが、中京大学時代の後輩から声を掛けてもらつたこと、地元に貢献したいという強い想いから、現在は至学館大学で体操部女子監督をやらせてもらっています。

まだまだ強いチームとは言えませんが、選手の時とは違い、指導・育成をする立場として一人ひとりに寄り添つた指導を心がけ、よりの1月に引退発表をしました。

(事務局) 現役を引退され、お一人とも現在は後進の育成に尽力されていると伺っています。現役時代から何か変化はありましたか?

### 人生の新たなステージ



(神谷) 私も指導者として主に小・中学生にバレーボールを教えていました。もともとバレーボール選手を目指す前は教師になりたいと思っていたこともあり、引退後は自然と指導者になりたいと思っていました。



▲市民まつりパレードに参加された寺本さん（10/16）

ところが、やはりプレーするのと教えるのは全く違つて、教えることの難しさを日々実感していく。す。

まだまだ手探りなことが多いですが、子どもたち一人ひとりが抱える課題をどのように解決するかを考え、悩み抜いています。その中で、子ども達が出来なかつたこ

今、抱く夢

(事務局) 現役を引退されて、現在も情熱を持って活動されているお二人ですが、改めて今現在の夢や目標があれば教えてください。

(神谷) 将来、私が指導した子ども達がプロ選手となって、オンラインピックに出演してくれたらとても嬉しいと思いますが、必ずそれよりも、バレーボールの普及に貢献したいと考えています。

バレーボールはまだまだ日本で  
浸透しているとは言えず、皆さん  
に知られていらない魅力がたくさん  
あるスポーツです。

指導者の立場になつて、より一  
層その魅力を発信したいという想  
いが芽生え、自分が中心となつて  
バレーボール界を盛り上げていき  
たいと考えています。

(寺本) 長い目でみれば、日本代表



(寺本・神谷) おっかといひわらこめこ  
た。

**(事務局)** 本田は貴重なお時間をいたしました。お二人の今後の「活躍」を願っています。

も達に伝えていくとともに、市として全力で応援したいと思っています。

小牧市では、「子ども夢・チャレンジNo.1 都市宣言」の理念に基づき、子どもを中心世代がつながる、あたたかいまちづくりに取り組んでいるところであり、若い世代の皆さん夢を応援するためのさまざまな制度を充実させていますので、ぜひこういった制度を活用してもらつて、一人でも多くの子ども達が夢を叶えてくれることを願っています。

お二人の体験談や想いを聞くことができ、私自身も非常に刺激を受けました。やはり、人は年齢を重ねるごとに、さまざまな経験を積む中で、壁にぶちあたることが



小牧市長 山下 史守朗